

【練習問題】

〔3〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

その朝、嫡子ちやくし権亮ごんのすけ少将これもちり維盛、院の御所へ参らんとて、出でさせ給ひたりけるを、おとどよび奉つて、「人の親の身として、か様の事やうを申せば、きはめてをこがましかれども、御辺ごへんは人の子供の中には、勝すぐれて見え給ふなり。但ただし、この世の中の有様、いかがあらむずらんと、心ほそごそ覚ゆれ。貞能さだよしはないか。少将に酒すすめよ」と宣のたまへば、貞能、御酌しやくに参りたり。「この盃さかづきをば、先まづ少将にこそとらせたけれども、親より先には(1)よも飲み給はじなれば、重盛しげもちりまづ取りあげて少将にささん」とて、三度うけて少将にぞさされける。

少将三度うけ給ふ時、「いかに貞能、引出物せよ」と宣へば、畏かしこまつて承り、錦にしきの袋ふくろにいれたる御太刀を取り出す。「あはれ、これは、家に伝はれる小鳥かたすといふ太刀やらん」などと、よにうれしげに思ひて見給ふ処ところに、さはなくして、大臣葬の時用ゐる無文の太刀にてぞありける。その時、少将けしきかはつて、(2)よにいまはしげに見給ひければ、おとど涙をばらはらと流いて、「いかに少将、それは貞能がとがにもあらず。その故は如何にといふに、この太刀は大臣葬の時用ゐる無文の太刀なり。(3)入道いんどういかにもおはせん時、重盛しげもちりが帯おびいて供せんとて持ちたりつれども、今は

〔出典〕

『平家物語』卷三

〔重要語句〕

- か様なり
- をこがまし
- みゆ（見ゆ）
- いかが
- 覚ゆ
- よも（じ）
- さす（注す）
- 畏る（かしこまる）
- あはれ
- やらん（にやあらむ）
- よに
- さ
- けしき
- いかに
- とかう（とかく）
- かづく
- 下向
- 失す
- げに

重盛、入道殿に先立ち奉らんずれば、御辺に奉るなり」とぞ宣ひける。

少将これを聞き給ひて、とかうの返事にも及ばず、涙にむせびうつぶして、その日は出仕もし給はず、引きかづきてぞ、ふし給ふ。その後、おとど熊野へ参り、下向して病つき、幾程もなくして、つひに失せ給ひけるにこそ、⁽⁴⁾げにもと思ひ知られけれ。

(『平家物語』による)

〔注〕 ○院の御所——後白河院の御所。

○おとど——維盛の父である、平重盛。

○入道殿——重盛の父である、平清盛。

問一 二重傍線部の「ん」と、文法的に同じ働きをするものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

えよ。

↓
p.87 ~ p.88 参照

ア 「少納言よ、香炉峯の雪いかならむ」と仰せらる。

イ 「なかくは急ぎ給ふ。花を見てこそ帰り給はめ」

ウ 名にし負はばいざこととはむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

エ 思はむ子を法師になしたらむこそこころぐるしけれ。



〔敬語〕

○参る

○給ふ

○奉る

○申す

○宣ふ

○承る

○おはす

〔古典常識〕

○嫡子

○権亮少将

○おとど (大臣)

○御辺

○熊野

問二 傍線部(1)「よも飲み給はじ」を口語訳せよ。

(↓
p.61・
p.88
参照)

問三 傍線部(2)「よにいまはしげに」とは、少将が何に対してどう思ったというのか、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部(3)「入道いかにもおはせん時」とは、どういう時か、わかりやすく言い換えよ。

問五 傍線部(4)「げにもと思ひ知られけれ。」とは、少将がどうしたというのか、その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 重盛自身が語った通りに、貞能の罪ではないと了解した。
- イ 重盛が自分に大臣葬の無文の太刀を与えた理由に納得した。

ウ 入道に先立たなければならぬ、重盛の無念さを理解した。
エ 素直に重盛から、太刀を受け取らなかつたことを後悔した。

